人口減少対策調査特別委員会中間報告書

市議会会議規則第45条第２項の規定に基づき、委員会活動概要を次のとおり報告する。

年月日	会　　議	内　　容
05.04.18	特別委員会 （第11回）	・当局から「けせんぬま未来人口会議」について，説明を受け，質疑等を行った。 ・人口減少対策に関する講演会（案）について協議を行った。本市が，宝島社の雑誌『田舎暮らしの本』で発表している「2023年版住みたい田舎ベストランキング」で東北エリア「総合部門」２位を獲得したこと等を受け，当該専門誌の編集長柳順一氏を講師に迎え，講演会を開催することを確認した。
05.05.29	特別委員会 （第12回）	・当局から「転入・転出者アンケート集計結果」について説明を受け，質疑等を行った。 ・人口減少対策に関する講演会について，内容等の協議を行った。
05.06.03	人口減少対策に関する 講演会	・演　題：「帰って来たくなるまちづくり」 ・講　師：株式会社 宝島社 『田舎暮らしの本』 編集長 柳 順一　氏 ※講演会実施報告及びアンケート集計結果　別紙１
05.06.21	特別委員会 （第13回）	・人口減少対策に関する講演会実施報告と今後の活動について協議を行った。
05.07.11	特別委員会 （第14回）	・団体等との意見交換及びＵターン等に関するアンケート調査について協議を行った。 ・気仙沼市移住・定住支援センターＭＩＮＡＴＯに協力をいただき，本市在住のＵターン者及びＭＩＮＡＴＯスタッフ等と本特別委員会委員との意見交換を行うこととした。 ・市の公式ＬＩＮＥを活用し，若い世代等を対象に，本市へのＵターン等に関するアンケート調査を実施することとした。
05.08.03	特別委員会 （第15回）	・団体等との意見交換「帰って来たくなるまち気仙沼」を考えるワールドカフェ １　内　容 気仙沼市移住・定住支援センターＭＩＮＡＴＯに協力をいただき，Ｕターンに関する現状や課題等を共有し，今後の人口減少対策の参考とするため，ワールドカフェ方式により，本市在住のＵターン者及びＭＩＮＡＴＯスタッフとの意見交換を行った。 ２　ワールドカフェの意見等 ※「団体等との意見交換」実施報告　別紙２

05.08.23 ～ 09.13	Ｕターン等に関するアンケート調査	・今後の人口減少対策の参考とするため，市の公式ＬＩＮＥを活用し，若い世代等を対象に，本市へのＵターン等に関するアンケート調査を実施 １　調査方法　市公式ＬＩＮＥによるアンケート調査 ２　調査期間　令和５年８月２３日～９月１３日 ３　調査対象　市公式ＬＩＮＥに登録している １０代～４０代の方 （８月２１日時点 1,453 人※生年登録人数） ※Ｕターン等に関するアンケート調査報告　別紙３
05.09.19	特別委員会 （第16回）	・団体等との意見交換及びＵターン等に関するアンケート調査の報告と政策提言に向けた今後の取組について協議を行った。 ・政策提言に関する骨格づくり及び意見集約，調整等を行うため，特別委員会内に６名の委員で構成する「政策提言に関するプロジェクトチームを設置した。
05.10.11	プロジェクトチーム会議 （第１回）	・チームリーダー及びチームサブリーダーの互選 これまで特別委員会で実施してきた団体等との意見交換やＵターン等に関するアンケート調査等を踏まえ，政策提言に関する骨格づくりについて協議を行った。 ○政策提言に関するプロジェクトチーム リーダー　菊田　篤 サブリーダー　白川　雄二 委　員　遠藤　秀和　委　員　今川　悟 委　員　千葉　慶人　委　員　三浦　友幸 （特別委員会委員長）　（特別委員会副委員長）
05.10.27	プロジェクトチーム会議 （第２回）	・「帰って来たくなるまち気仙沼」をテーマに，Ｕターンの施策に絞り，提言項目（案）について協議を行った。
05.11.10	特別委員会 （第17回）	・政策提言に関するプロジェクトチーム会議における項目整理及び施策（案）並びに今後の進め方について協議を行った。
05.11.16	プロジェクトチーム会議 （第３回）	・１１月１０日の特別委員会における意見等及び今後のプロジェクトチームの進め方について協議を行った。
05.11.24	プロジェクトチーム会議 （第４回）	・提言項目を整理し，提言書（案）として２つの案をまとめ，その中から１つの案に絞り，具体的な政策案等について協議を行った。

05.12.01	プロジェクトチーム会議（第５回）	・提言書（案）を基に，具体的な政策案等について当局との意見調整を行った。 ・意見調整を踏まえ，提言書（案）の修正を行った。 当局出席者： 震災復興・企画部長，人口減少対策統括官　外５名
05.12.18	特別委員会（第18回）	・政策提言に関するプロジェクトチーム会議における提言書（案）及び今後のスケジュール（案）について協議を行った。
05.12.25	全員協議会	・政策提言書（案）【中間報告】について，全員協議会で説明し，協議を行った。
06.01.09	プロジェクトチーム会議（第６回）	・提言書（案）の最終調整について協議を行った。
06.01.18	プロジェクトチーム会議（第７回）	・提言書（案）の最終調整について協議を行った。
06.02.01	特別委員会（第19回）	・提言書（案）の最終確認及び今後の進め方等について協議を行った。
06.02.09	全員協議会	・「人口減少対策」に関する政策提言書（最終案）について，全員協議会で説明し，協議を行った。
06.02.20	政策提言書手交式	・議長から市長へ「人口減少対策」に関する政策提言書を手交した。 場　所：市役所２階　応接室 出席者：議長，副議長 人口減少対策調査特別委員会委員長，副委員長，委員 市長，副市長，震災復興・企画部長，人口減少対策統括官　外
06.02.29	特別委員会（第20回）	・中間報告の取りまとめについて協議を行った。

令和　６年　３月　６日

人口減少対策調査特別委員会
委員長　千　葉　慶　人

議長　鈴　木　髙　登　　様

別紙１

人口減少対策に関する講演会実施報告

１　目　的

本市が，宝島社の雑誌『田舎暮らしの本』で発表している「2023 年版住みたい田舎ベストランキング」で東北エリア「総合部門」２位を獲得したこと等を受け，本特別委員会の調査活動の一環として，当該専門誌の柳順一編集長を講師に迎え，「帰って来たくなるまちづくり」と題し，議員研修会も兼ねて，市民等を対象とした講演会を開催したもの。

２　日　時　　令和５年６月３日（土）　14：00～15：30

３　会　場　　気仙沼市役所ワン・テン庁舎　２階　大ホール

４　対　象　　どなたでも参加可能とし，入場無料，事前申し込み不要とした。

５　参加者　　来賓（市長，副市長）２人　市議会議員 19 人　一般参加者（市職員含）55 人
議会事務局５人　計 81 人　報道機関（三陸新報，K-NET）　２人

６　講　演　　演　題　「帰って来たくなるまちづくり」
講　師　株式会社　宝島社　『田舎暮らしの本』
編集長　柳　　順　一　氏

７　主　催　　気仙沼市議会（担当：人口減少対策調査特別委員会）

８　その他　　講演会終了後，参加者に「人口減少対策に関するアンケート」を記入していただき，回収した。
※アンケート集計結果　別紙のとおり

９　内　容

宝島社『田舎暮らしの本』の編集長 柳順一氏を講師に迎え，「帰って来たくなるまちづくり」と題し，講演をいただいた。

講演では，始めに宝島社の紹介があり，その後，本市が『田舎暮らしの本』の「2023 年版住みたい田舎ベストランキング」で東北エリア「総合部門」２位を獲得した内容等について説明を頂いた。このアンケートを基に行った大阪経済大学の調査・検証では，概ね市町村間における支援策の実施状況に大きな差異はないが，支援策の効果の違いは，起業・事業支援策及び移住者の受け入れ体制の違いにより，移住者の増減で大きな差異が確認できるというものであった。例えば，移住相談で専任職員が配置されていること，４年以上継続している担当者がいることが有意な要因となっている。本市の上位ランクインは，本気で移住定住施策を充実させた成果である。

また，人気移住地の傾向としては，コロナ禍では東京通勤圏の地方都市が人気であり，宮城県は７年ぶりに転入超過，東北県で唯一の転入超過となっている。

お手本になる人気移住地は，大分県豊後高田市で，人口２万人以上３万人未満のまち全４部門で１位，11 回連続ベスト３，2014 年以降，「転入>転出」の「社会増」を継続している。定住支援策 185 項目のうち、移住者限定の施策は一部であり，施策の多くは，市民が対象となっている。定住施策の充実は，市民サービス，市民生活の向上に寄与し，人気移住地は「みんなが暮らしやすいまち」を目指して地域が一体となって取り組むのが王道であり，故郷=帰って来たくなるまち」になるには，「暮らしやすさ」だけでは十分ではない。

若者が「大切な人がいる」「自分の居場所がある」「育ててもらった」と感じられることが必要であり，遊び，お祭り，イベント，プロジェクトなどに参加する機会，年上の方に可愛がってもらう経験が必要であり，故郷に温かい人間関係があれば，移住先の第一候補になるとのことであった。

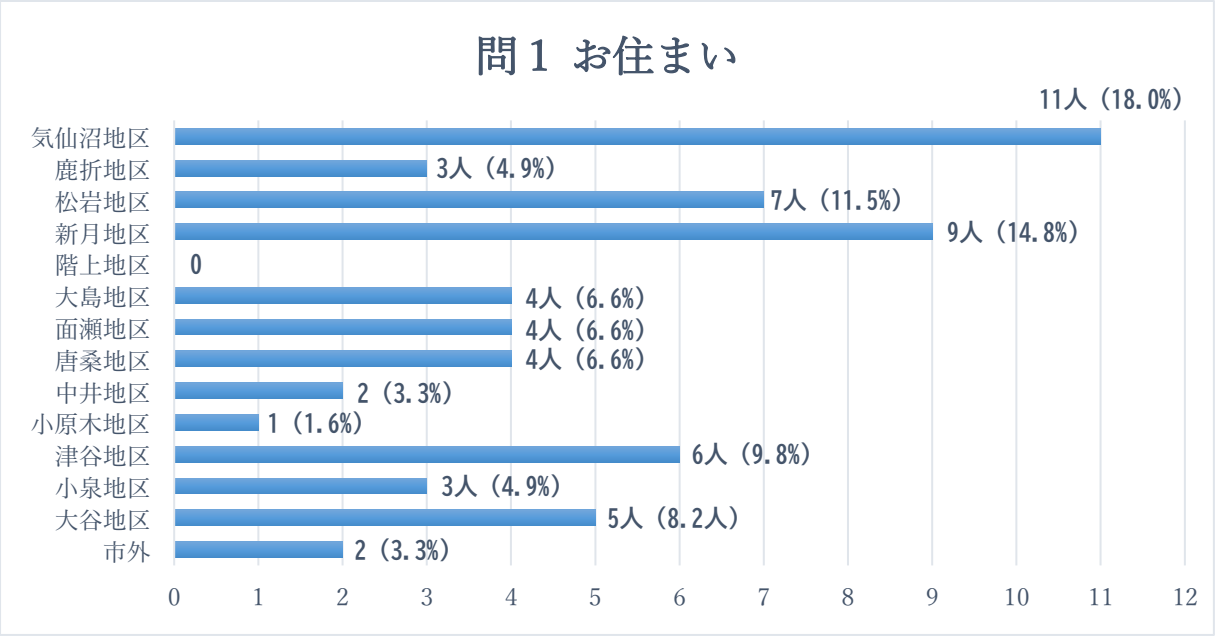
気仙沼市議会

人口減少対策に関するアンケート集計結果

出席者 81 名，回答者 61 名，回答率 75.3%

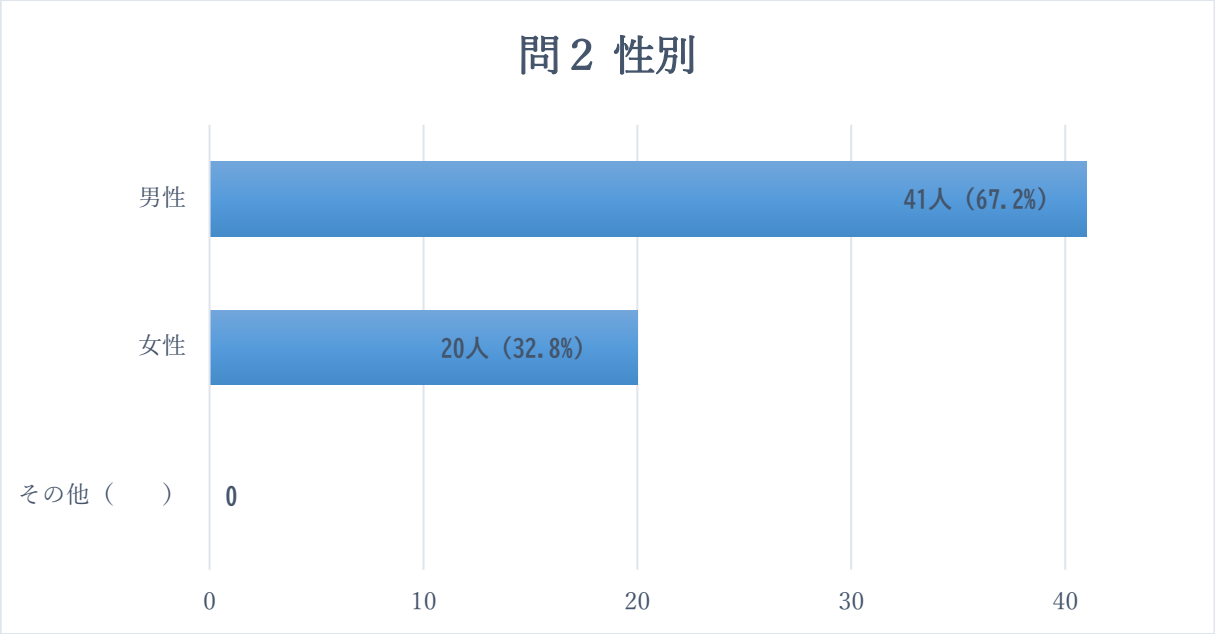
問１　お住まい　※回答 61

1　気仙沼地区　2　鹿折地区　3　松岩地区　4　新月地区　5　階上地区
6　大島地区　7　面瀬地区　8　唐桑地区　9　中井地区　10　小原木地区
11　津谷地区　12　小泉地区　13　大谷地区　14　市外



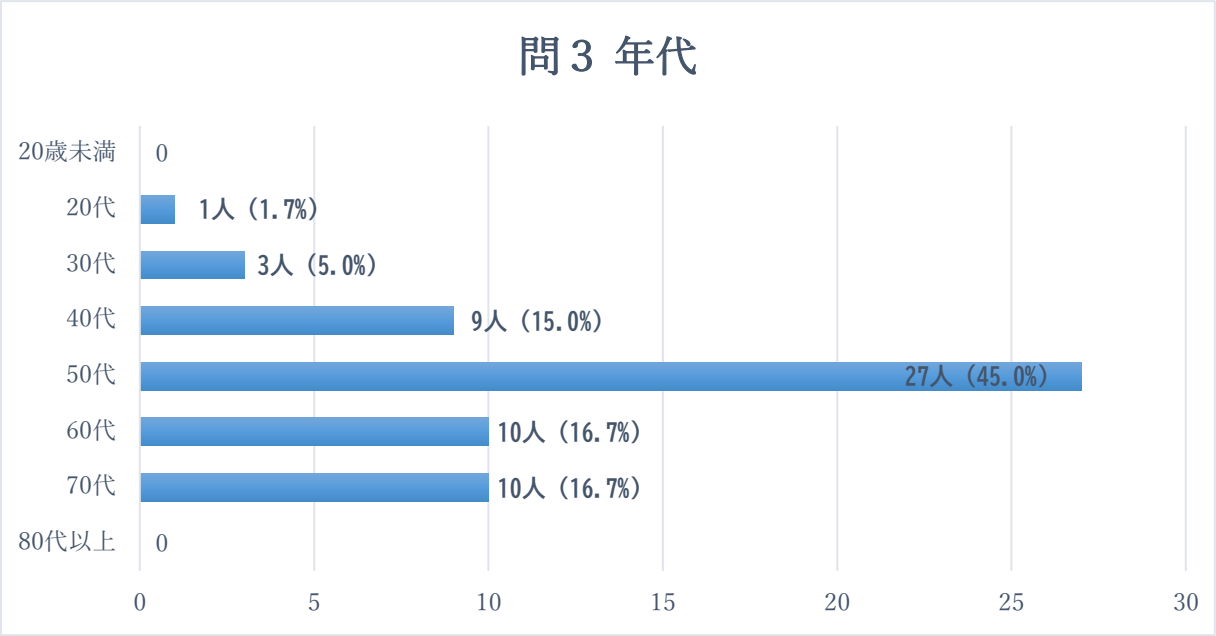
問２　性 別　※回答 61

1　男 性　2　女 性　3　その他（　　）



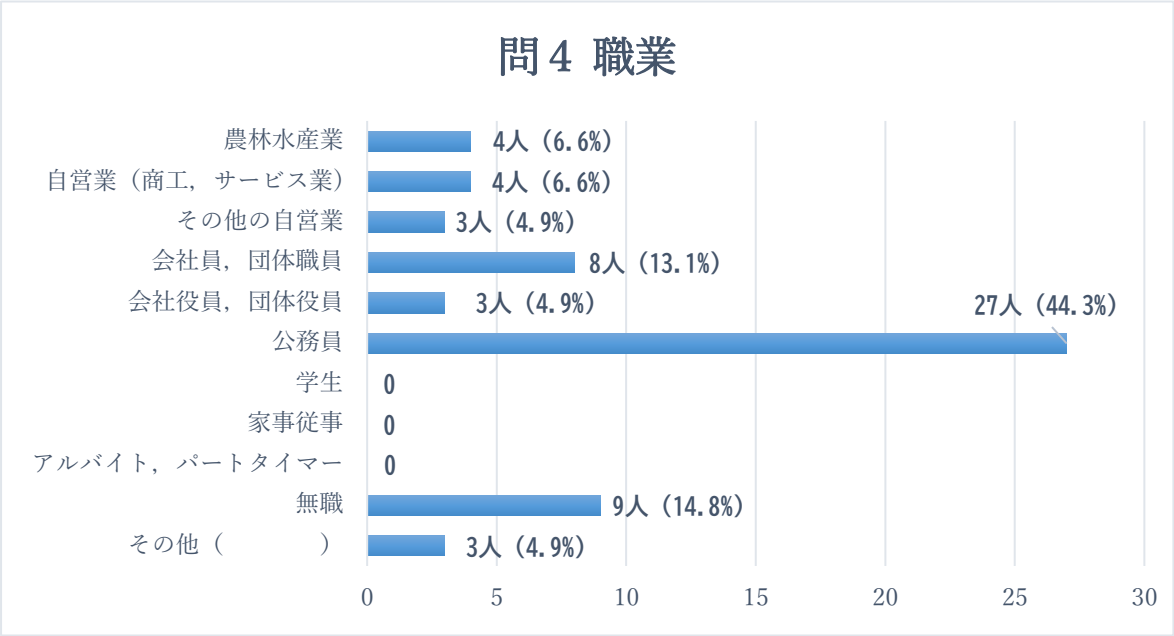
問３　年 代　※回答 60　未回答 1

1　20 歳未満　2　20 代　3　30 代　4　40 代　5　50 代　6　60 代
7　70 代　8　80 代以上



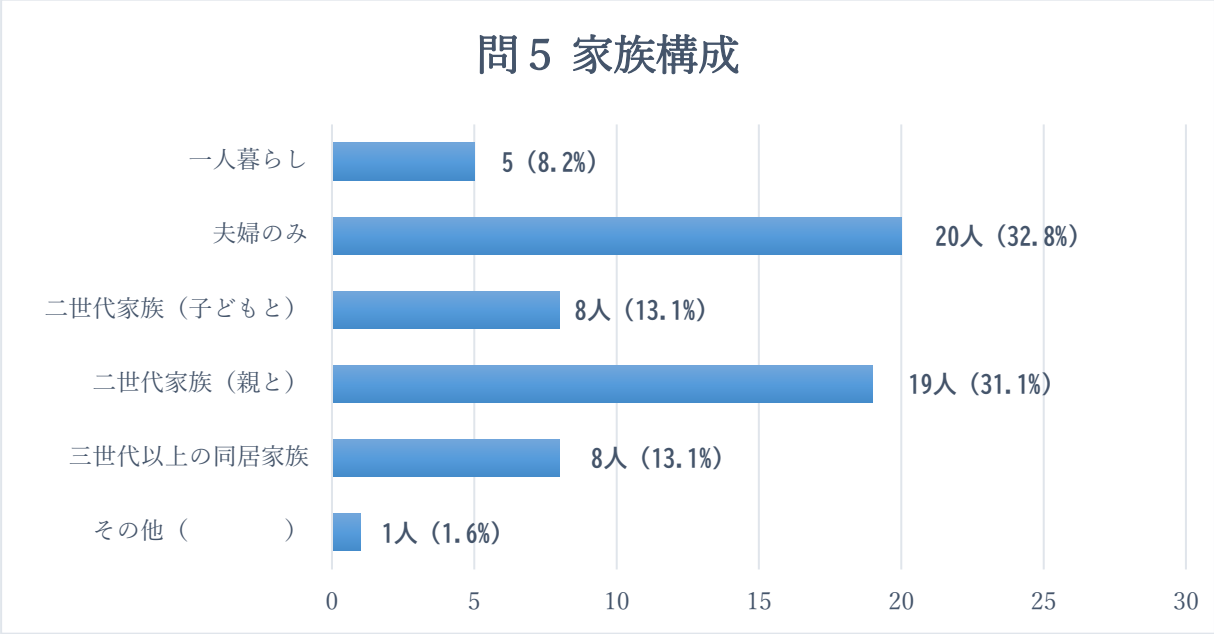
問４　職 業　※回答 61

1　農林水産業　2　自営業（商工，サービス業）　3　その他の自営業
4　会社員，団体職員　5　会社役員，団体役員　6　公務員
7　学生　8　家事従事　9　ｱﾙﾊﾞｲﾄ，ﾊﾟｰﾄﾀｲﾏｰ
10　無職　11　その他(　　)



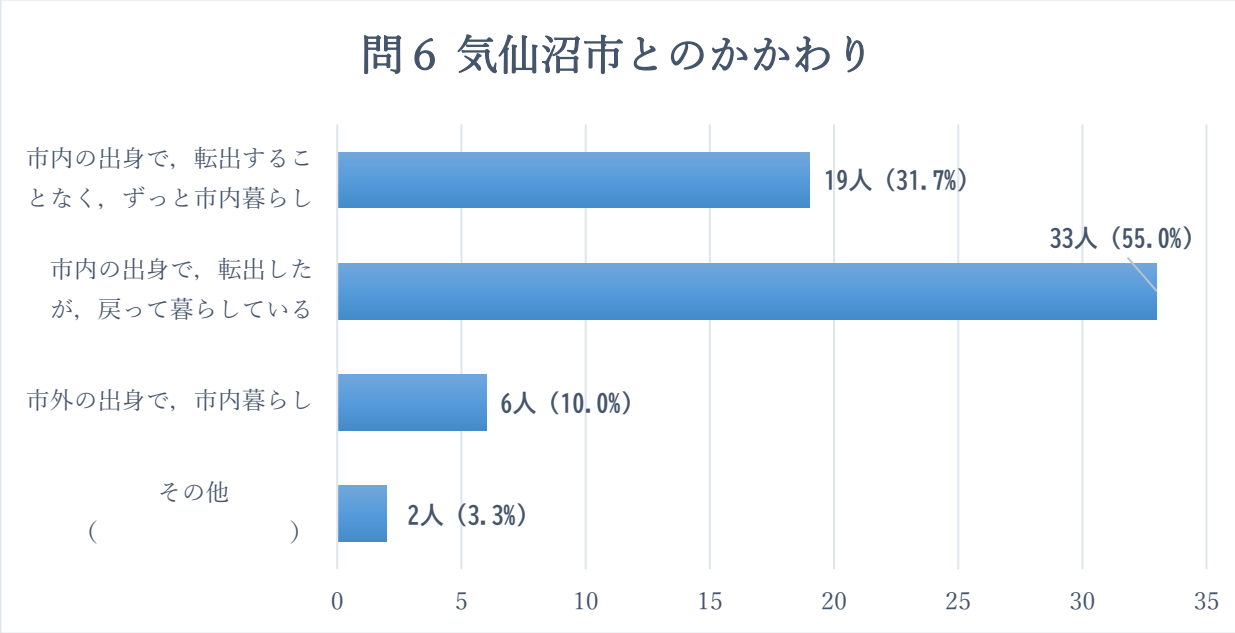
問５　家族構成　※回答 61

1　一人暮らし　　2　夫婦のみ　　3　二世代家族（子どもと）
4　二世代家族（親と）　5　三世代以上の同居家族　6　その他（　　）



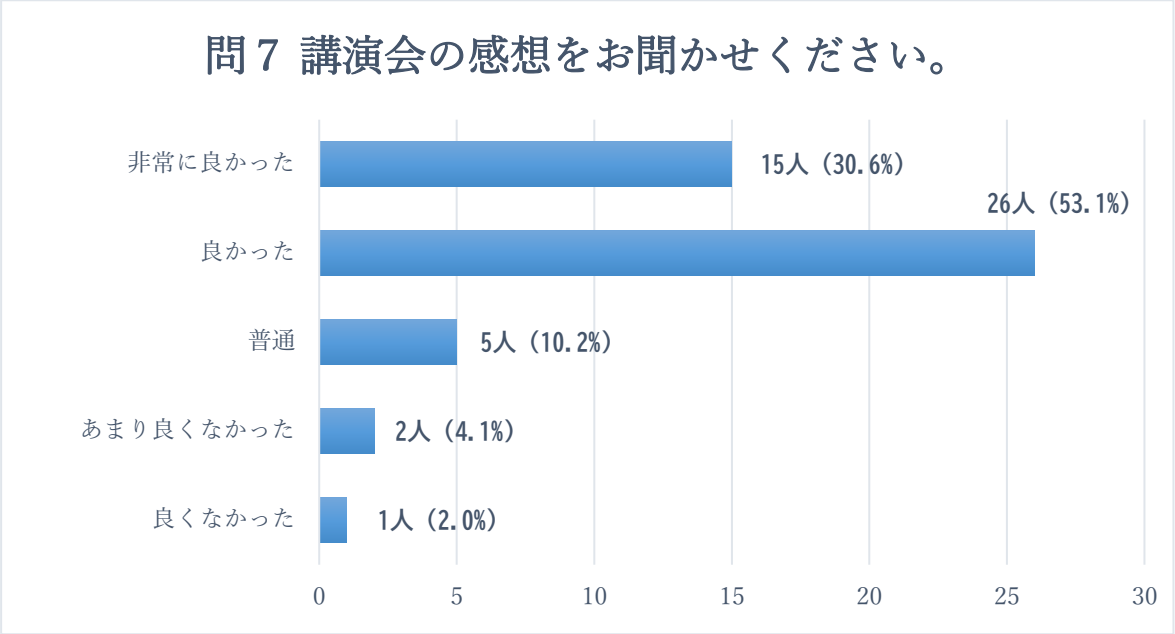
問６　気仙沼市とのかかわり　※回答 60　未回答 1

1　気仙沼市内の出身で，市外に転出することなく，ずっと市内で暮らしている
2　気仙沼市内の出身で，進学や就職などで市外に転出したことはあるが，戻って暮らしている
3　気仙沼市外の出身で，市内で暮らしている
4　その他（　　）

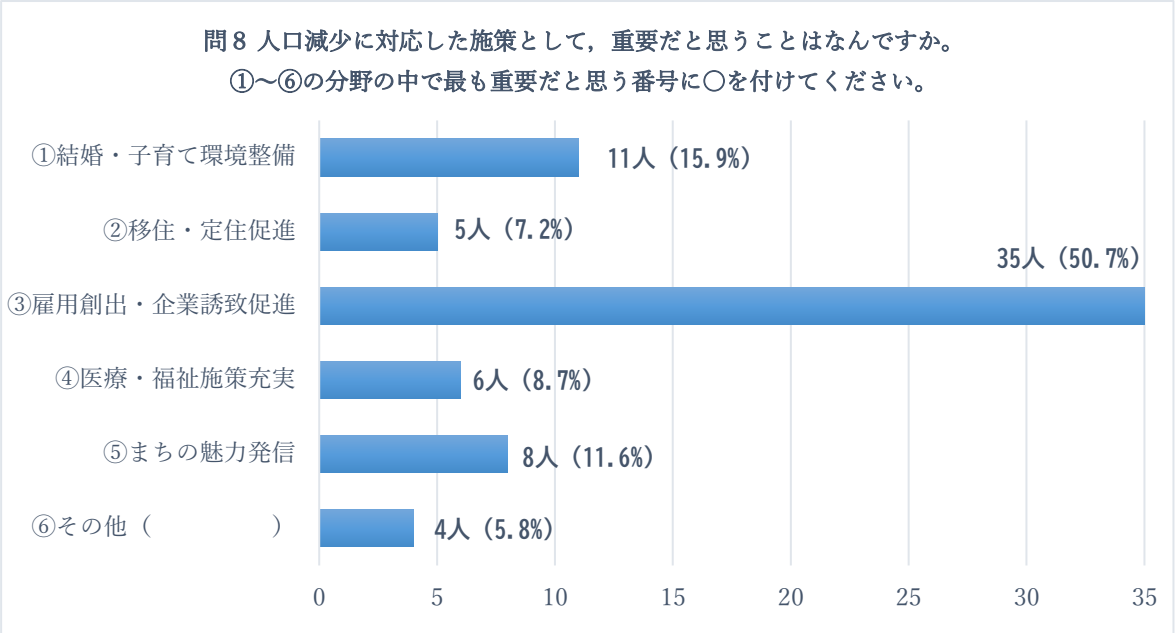


※その他２人（南三陸町，市外出身で市内に勤務）

問７　講演会の感想をお聞かせください。※回答 49　未回答 12
　1　非常に良かった　2　良かった　3　普通　4　あまり良くなかった　5　良くなかった



問８　人口減少に対応した施策として，重要だと思うことは何ですか。①～⑥の分野の中で最も重要だと思う番号に〇を付けてください。※複数回答　回答 69　未回答 3
　①　結婚･子育て環境整備　②　移住･定住促進　③　雇用創出･企業誘致促進
　④　医療･福祉施策充実　⑤　まちの魅力発信　⑥　その他（　　）



※その他4人（教育支援，まちとしてのビジョンと戦略，生活の豊かさ，テレワーカー誘致）

問９　Ｕターン率向上（特に若い世代）のためには何が必要だと思いますか。ご意見を自由にお書きください。

・住宅，アパートの補助。
・お試し保育をしながら，仕事さがしなど出来るとお試し移住ができるのでは。
・競争力のある産業創出，一次産業の安定雇用確保。
・若者の声を大事にする。
・空き家について，子育て支援，企業誘致。
・単身や世帯を持って，Ｕターンする場合等は，気仙沼から通勤出来る職場があるかが一番重要なポイントで，さらに子育て世代ではより子育てしやすい支援制度を他市町村より，良い事が条件と思われる。
・特に若い女性が働く職場が必要。
・狭い範囲における地域のゾーニングによる都市の利便性向上。
・水産業中心にするも他の水産都市にはない特色，魅力をどうつくり発信していくか。
・震災ボランティア等での気仙沼生活体験から，地元民には気づかなかった，外から来た人に見える魅力ポイントが参考になると思う。
・市内企業の就労環境の整備と当局並みの賃金体系が必要である。
・若い人たちが起業できるための環境づくり，自立できるまでの支援。
・子育て・医療・教育の問題を含めたライフプランの共有。
・ICT 環境の整備。
・若い世代との価値観の共有，SDGs，地球温暖化，多様的価値観，男女平等　など。
・生きがいをもって仕事に向き合える環境。
　・就職環境（賃金，職種など）　・生活環境（住居，買い物など）
・出て行く前に気仙沼の良さを感じさせてあげられるよう，今ここで生活している大人が楽しく過ごせること。
・子どもの身近な大人（親等）が気仙沼で楽しく暮らせていることが大事だと思う。
・子どもに地域での人間関係を大切にさせること。
・仕事があるかどうか，特に IT 関連の仕事，町のにぎわい。
・水産都市に特化した行政だけでなく，他の分野にも目を向けた幅のある施策をお願いしたい。
・子育て支援，働いていても子育てができる保育所，ファミサポ等。
・年収が少なくても生活できる仕組み（休耕農地の貸出など）。
・シニア世代から技術を学べる仕組み（自給自足，野菜づくり，水産業等，DIY）。
・やりがいのある仕事，明るく，楽しくやっていける。
・Ｕターンで帰ってきたが，高卒の町で残念な気がする。
・空き家支援の充実と子育て支援（教育，学習しやすい）。
・東京と同じとまでは言わないが，まあまあ給料がもらえる仕事があれば，戻ってくる可能性がある（30 代で手取り 30 万円，40 代で 40 万円）。
・移住した後は，知り合いをつくれた方が良いので，横のつながりを作れる仕組みがあると良い（ぬま大，移住ママ達の企画など）。

・戻る先を気仙沼市の枠にこだわるのは既に無理があるのではないか，市町の枠組みを超えて広い意味で戻る（U ターン）というよりは，各市町の特色を活かした様々な役割を深掘りすることが大事ではないか。
・したい仕事の選択肢が多く，気仙沼で暮らし続けたいと思える幸福感が一人ひとりに継続的に生まれ，周りにも波及していること。
・帰ってくる→住み続ける，られる事が大事。生活するうえでは雇用創出が大事と考える，経済的な安定も必要と考える。仕事は重要。
・帰ってくる期限がついたような奨学金制度をつくる。または，帰ってきて 3 年定住したら無償にする等。
・まずは食べていける雇用の確保（自営などで自立できる場合は少ないと思う）経験値の高い受入体制の人員の確保，地に足がついた生活をきちんとイメージしてもらう。
・18 才までにまちの魅力を感じること。自分の故郷を自慢に，他に発信できるようになること。
・U ターンするからには，魅力ある職場の存在だと思う。先日の新聞紙上，商工会議所で取り上げた人口減少対策として，40 項目もあったと聞いていますが，それらのことを私達市民も知った上で取り組みに協力して行くことが出来るのではないか。
・豊後高田市の無料市営塾の教育支援等は，まちに育てられたという実感を持てると感じる　それがふるさとへの恩返しとして U ターンに繋がるかもしれないと感じた。
・進学のために故郷を離れても，魅力的なお仕事があれば帰ってくるかもしれない。
・働き先の選択が少ないため，U ターンをあきらめると聞いたことがある。海があり山があり食べ物もおいしい気仙沼なので何か変えることはないと思うが，就職先，それだけが問題だと思う。
・田舎の魅力，スローライフが叶えられる（ワークライフバランス）。安心して子育てが出来る。こじんまりしているまちだけど，住んでいて幸福度が上がるまちと感じられる。
・働きやすい職場づくり。賃金増。
・ジェンダーギャップ解消。若い世代に帰ってきて欲しいなら，若い世代の意見を聞くことが必要ではないでしょうか。
・雇用の創出と賃上げ。家賃が安いこと（アパートなど）。
・多世代間の交流。収入増。
・子育て政策と住宅支援施策の充実。
・やはり収入の確保，職業選択の多様化，それに伴う暮らしの環境整備。
・市外から戻ろうとした時に一番に問題となるのは収入。戻っても仕事があるとなれば，戻りやすくなると考える。また，老後が暮らしやすく，楽しいとなれば安心して戻れると考える。
・若い世代，特に女性のニーズに合う職種，給与，就業環境（休日等）。
・若い世代　U ターン者が加わりやすいコミュニティ。
・女性が暮らしやすい（幸福感，楽しめる）まちに。
・孫ターン奨励金。
・高齢者・子育て世帯リフォーム支援補助金。
・お帰りなさい住宅改修事業補助金。

・問い合わせに耳をかたむけ，良い印象を持ってもらう。
・まずは希望する就職先があるかどうかなのかと思う。
・若い女性がクリエイティブに働ける場が必要（まかせてもらえる場と風土が前提）
・子育て支援のメニューが多くあることが必要。
・本市は娯楽施設が足りないと思う。
・親が子に対して「帰ってくるな」又は「帰ってこい」と言わずに，本人の意思に任せることが大切だと思う。高校生以下の子どもたちの背中を押し，信じて見守ることが結果として U ターンを生むのかもしれないと思う。
・問 8 の①結婚・子育て環境整備，③雇用創出・企業誘致促進が最も重要と思う。
・住みやすいまちづくり，気仙沼は公共施設と商業地域が点在しているので，まちの賑わいを作り出しにくい印象がある。福祉や雇用も大切だけど，車がないと年取った時，安心して住み続けられない不安がある。公共交通の集約も出来るので，もっとグランドデザインをしっかりした方が。
・U ターンしたいと思えるまちの魅力づくり，住んでいる人がこの町で暮らすことを楽しんでいること。仕事。
・仕事と賃金，県内一低い　このような講演会を色々な方を招いて開いて欲しい。
・住んでいる自分が楽しくなるようにしていく。

問 10　今後の市政やまちづくりについて，ご意見を自由にお書きください

・100 円～200 円で乗れるバスの運行があると良い。
・ふるさと納税などの独自財源確保と気仙沼市ならではの特色ある施策展開に期待。
・気仙沼地域の地域性を活かした行政の推進。
・医療，福祉施策の充実。
・ガイドブックの更新（移住等）、他市の取り組みを取り入れる，地域の良さを引き出して行く，仕事，子育て，問い合わせの内容をまとめ不足している問題に取り組む（みなとからの調査），U ターンの人の働く場所の確保。
・都市機能の役割選択と集中を的確に行い，成長するまちづくりを期待。
・市道で幅の狭い道路の側溝には全てフタをかけ，すれ違いやすくすること。買収・拡幅は財政負担が大きすぎるでしょうから　高齢者でもいくらか運転しやすくなるように。
・親の介護のため等，義務的 U ターンで決断を迫られても現役世代が安心して転職できるよう就業機会・職種をいかに増やし，充実させるか。介護受け入れ体制の充実，スタッフの待遇改善につながるような老健施設への市独自の支援。
・危機感が足りない。国の政策どおりで本当に人口減少問題が解決すると思っている人はほとんどいない。現在の出生率を維持するだけでも難しいと思う。もっと効果的な政策を打ち出してほしい。気仙沼の農・水業は魅力がいっぱいだ。しかしそれだけでは不十分で，6次産業化を図るための支援など若者が夢と希望をもって取り組める政策を提示してほしい。出生率の問題は決して個人に帰するべき問題ではない。日本という国の在り方と，子どもたちの未来がかかっている。政治や行政の在り方が厳しく問われていることを忘れてはならない。

・自然を活かした町づくりが必要。気仙沼の良さは自然（海・山）が多く，これを大切にすること。それゆえ，ILC とか風力発電など十分吟味する必要がある。
・お金になる雇用が無い，安すぎ。
・本日聞いた支援策は，移住することが決まった後にあると良い，喜んでもらえると思う。移住するきっかけが何なのか，豊後高田市の 20～39 歳女性が，なぜ移住することになったのか知りたいと思った。
・帰ってきたいが大切なテーマだとする側がまず認知すること。多様な人材が来ることに加え，その人たちを活用する人材も大切。多様性の良し悪しの良しを見極めること。
・人口減少，移住だけに偏らないで欲しい。震災後，エネルギーとの関りで山が見直されていて若い人を取り込んだ事業が立ち上げられている　そのような形での人の受け入れも対策のひとつかと。
・気仙沼市の努力が形に見えたことは大切であり，もっと市民が関心を持てる機会を増やして，全体意識を高める必要性は感じる。
・この施策があればいいというものは，なかなかないと思う。小さなもの，人の心を育むものなど，色々な施策がつながって，ここに住みたい，帰ってきたいと思ってもらえるのでは。まずはここに住んでいる人が，住みやすいと思える，心に余裕がもてるようなまちになるよう。
・気仙沼市は，地理的，歴史的に見ても地場産業を軸とするのが大切だと思う。海をとらえ直して，漁業水産業のアップデートとその他海洋に関する新産業の創出。現存の人ではなく，新しい起業家をいかに呼び込み競争を起こすかが大切ではと思う。
・豊後高田市のように，柔軟に制度を導入　時に保育や子育て制度などの更なる充実。
・専門職員の張り付けを。
・話し合う場が数多くあれば最高。
・講演でもあったように，「市民が暮らしやすいまち」になれば移住者もおのずと増えて来ると思う。復興のハード面が落ち着いた今，「市民の暮らし」が豊になるまちづくりをお願いしたいと思う。そのためには人づくり，地域の活性化につながる取り組みを強化していただければと思う。
・気仙沼は漁港ということもあり，男性の視点が強いと思う。女性の視点を活かして，バランスの良いまちづくりをお願いしたい。皆が暮らしやすいまち，優しいまちでありたい。
・豊後高田市の政策を参考にして当市も準じた方が良い。
・「数字を追わない」と当局は言っているが，「まずは追え」という考えも重要でないか。
・市と市民の協働の場面が多くなることが活性化に繋がると思う。
・今後，技術の発展により生き方，暮らし方が容易に多様になりえる（リモートでの仕事，2拠点での暮らしなど）。そういった人たちの受け皿になりうる環境（主に施設や通信環境など）を整えることが大切かと思う。
・人口減対策の話し合いの場には若い世代（中学生，高校生）への呼びかけが必要と考える。

・奨学金返還支援，素晴らしい政策だと思う。若い人が戻ってくる仕掛けをどんどんして欲しい。ゴールデンウィーク，気仙沼で何もイベントがなかった。陸前高田や大船渡ではイベントがあった。もっとイベントにも力を入れて欲しい。子育て世帯が移住するには住宅の補助を手厚くしてタダ同然で家が持てる位の目玉的要素が必要だと思う。
・人を活かすまちづくり。
・「帰って来たくなるまちづくり」ではなく，「住みたくなる街気仙沼」の方が良いのでは対象は出身者だけですか。誰もが住みたくなる町を目指そう。
・MINATO の取り組みと地域民がつながる方法，仕組みがあると良い。

別紙２

人口減少対策調査特別委員会「団体等との意見交換」実施報告

－「帰って来たくなるまち気仙沼」を考えるワールドカフェ －

日　時：令和5年8月3日（木）午後7時
場　所：ワン・テン庁舎　大ホール

1 内　容

本市における人口減少の要因の一つは，若い世代の流出となっており，本特別委員会では，この状況を踏まえ，本年度の調査・検討メインテーマを「帰って来たくなるまち気仙沼」とし，調査活動を行っている。

今回は，調査活動の一環として，気仙沼市移住・定住支援センターMINATOに協力をいただき，Uターンに関する現状や課題等を共有し，今後の人口減少対策の参考とするため，ワールドカフェ方式により，本市在住のUターン者及びMINATOスタッフとの意見交換を行った。

2 ワールドカフェの意見等

◆第1グループ　5名　※テーブルホスト以外は，ラウンド毎に席替え

◎テーブルホスト 三浦　友幸	第1ラウンド			
	MINATOスタッフ	Uターン者	今川　悟	秋山善治郎
	第2ラウンド			
	Uターン者	Uターン者	及川　善賢	佐藤　健治
	第3ラウンド			
	Uターン者	Uターン者	熊谷　雅裕	三浦　由喜

良かった点（第1グループ）

【自然】
・自然に触れる時間が増えた
・食べ物をもらえる

【Uターン者等】

・小さい時食べたおいしい魚を食べられる
・釣りができるまち

【特別委員会委員】

【テレワーク】
・職場が近い　関東は電車で1時間
・好きな仕事を好きな場所でできる（結果的に）
・20～30 代のIターン者・起業家が多い
・リモートで作業ができる拠点は多い（コワーキング，カフェ，図書館）
・人口に対してカフェとスナックの数が多い

【Uターン者等】

【つながり】
・地元のつながりがあるなかで仕事ができる
・新しい施設が増えている

【Uターン者等】

課題（第1グループ）
【補助金】 ・助成金が認知されていない 【Uターン者等】 ・市の通常事業でも移住・定住に資する事業は全てみせていく 【特別委員会委員】 【固定費】 ・住居＆移動　手段の確保 ・車の維持費 【Uターン者等】 ・1割が公営住宅（帰りにくい） ・大学へ通わせる費用が苦しい 【特別委員会委員】 【仕事】 ・市からの仕事でも給料が低い ・給料の差 ・仕事（特に職種） ・給料上がらない 【Uターン者等】 ・給料が低い ・都市部との給料の格差 ・仕事選べない ・跡継ぎ以外はNO 【特別委員会委員】 【子ども】 ・屋内の子どもの遊び場が少ない ・子供の遊ぶ所がない ・どの公園も遊具が同じ ・教育 【Uターン者等】 ・プールが3回しかない 【特別委員会委員】 【つながり】 ・同級生がいるか分からない 【Uターン者等】 ・コミュニティが広がりにくい（友だちだけで集まる） ・大学とか専門校とかキャリアがあるほど ・年を重ねると家族助かる（子育て介護） 【特別委員会委員】

課題（第1グループ）

【コミュニティ】
・地域の見られている感　≒　閉塞感
・そもそも地域に対してネガティブ　知らない
・大きな商業施設

【Uターン者等】

【病院】
・生活費等のイメージがしにくい
・小児科少ない
・病院待ち時間長い
・病院が少ない

【Uターン者等】

改善案（第1グループ）

【情報】
・公営住宅や空き家　若い人にかして

【Uターン者等】

・発信力　広報　HP（外向けも）
・好きなこと！趣味！
・孫ターン奨励金　県外に居住している方が祖父母の実家がある本市に転入する際に奨励金交付（50万円）

【特別委員会委員】

【子ども子育て】
・氣の復活
・子ども支援の充実
・子育て中の女性が働きやすい事業
・ひとり親の支援（ひとり親が住みやすいまち）

【特別委員会委員】

【仕事】
・会社が副業の後押しする（会社にとってもリソースが増）

【Uターン者等】

・収入を伸ばしていける仕組み
・農作業を一年間体験してみる
・副業アプリほしい！！
・24時間自由に仕事をして！
・逆求人　私を雇って下さい！！　新聞にPR広告
・大学生への就職説明会

【特別委員会委員】

改善案（第1グループ）
【つながり】 ・外とのつながり内でのつながりをもてる ・オープンな空気 ・友人がいる（友の友は友だち方式） 【特別委員会委員】 【病院】 ・病院の待ち時間の解消　→　スマホで ・午後診断 【特別委員会委員】

◆第2グループ　5名　※テーブルホスト以外は，ラウンド毎に席替え

◎テーブルホスト 遠藤　秀和	第1ラウンド			
	MINATOスタッフ	Uターン者	及川　善賢	熊谷　雅裕
	第2ラウンド			
	Uターン者	Uターン者	千葉　慶人	秋山善治郎
	第3ラウンド			
	MINATOスタッフ	Uターン者	佐藤　健治	熊谷　伸一

課題（第2グループ）
・働き方の幅が狭い ・給与と生活費のバランスがみえる ・「やりたい仕事」がない（イメージ含め） ・仕事（賃金） ・給与の低さ ・テレワーク環境の不足 ・家賃の高さ ・単身者向けの物件が少 ・単身物件が高い ・住居と移動手段の確保 ・仕事のイメージが湧きづらい 【Uターン者等】 ・賃金が低い？ ・仕事 ・経営者の考え方改善 【特別委員会委員】

課題（第2グループ）
・結婚 ・1 人でイベントに参加しづらい（様々なイベント開催されているけど） ・プライバシー　一人の時間をつくりにくい ・まちコンは参加しにくい ・所得も生きがいも充実していたい！！ ・海外連携の強化 ・やりがいと経験を生かせる ・まちの中に顔見知り・家族がいる感覚 ・気仙沼の状況が分かりづらい ・同世代のIターン起業家（同志）が多い ・情報の固定化 ・もどってからの支援があるのかないのか分からない 【Uターン者等】 ・ハードルが高い ・U ターンの決め手は？ ・必要な支援は？ 【特別委員会委員】

対策（第2グループ）
・新しい働き方が認められる ・会社が副業を後押しする ・副業をスタンダードに ・シェアする相手になやむ ・コーディネーター人材 【Uターン者等】 ・農地がある海がある ・農地あっても業になりにくい ・副業の確立 ・住宅補助が必要 ・空き家のシェア化はできないか 【特別委員会委員】

対策（第2グループ）
・まちの中で自分の役割が多い 【Uターン者等】 ・出会い ・キッカケが欲しい　出会い ・サークルなど ・楽しみをみつける ・情報の発信 【特別委員会委員】

◆第3グループ　5名　※テーブルホスト以外は，ラウンド毎に席替え

◎テーブルホスト 白川　雄二	第1ラウンド			
	Uターン者	Uターン者	佐藤　健治	熊谷　伸一
	第2ラウンド			
	MINATOスタッフ	Uターン者	今川　　悟	三浦　由喜
	第3ラウンド			
	Uターン者	Uターン者	千葉　慶人	及川　善賢

良い点（第3グループ）
・友だちがそばにいる ・自然であそべる ・新しい施設，飲食店が増えていてうれしい ・おじいちゃんおばあちゃんが近くにいる ・「暮らし」と「働く」が近い ・家族や顔見知りがまちの中にいる感覚 ・同世代のIターンや起業家（同志）が多い ・まちの中で自分の役割がある ・MINATO が心強い 【Uターン者等】 ・友人たちが大勢いた（遊び仲間） ・食べ物が美味しい ・海があるといい ・車とレジャー ・生きがいを求める→起業 ・長男の宿命 【特別委員会委員】

課題（第3グループ）
・住むところが高い ・小児科が少ない ・戻る理由になる強みをつくる ・プライバシー　一人になる時間 ・固定費が高い（車，家賃，光熱費） ・車が必要 ・給料上がらない ・単身者向けの物件が少ない ・仕事の少ない ・あずけるところ ・情報の固定化 【Uターン者等】 ・安価な家 ・職種が限られた ・国家資格の利用 ・おためし移住の1年は短い ・となりの芝生は青いんだろうなあ ・就職先の確保 ・子育て環境 18 才までお金がかからない ・移住したいのに公営住宅に入れない ・都市部との給料の格差 【特別委員会委員】

対策（第3グループ）
・シェハウスもっとある ・挑戦を応援する ・子育て支援 ・ちょっとだけ参画できる機会（例：お祭りの太鼓） ・シェアの文化を根付かせる（車，情報など） ・空き家を若い人達へ ・習い事の充実 ・小さく始められるテナント ・個人事業主を支援する仕組み ・専門家に学ぶことができる環境 ・空き家（住まいも店舗も）かりやすい ・公営住宅貸してほしい 【Uターン者等】

対策（第3グループ）

・自分ですきな会社をつくってやって！
・リフォーム補助の増額
・ふるさと納税の有効利用　→　定住
・起業支援策が必要
・女子ターン奨励金　県外に居住している単身女性が定住目的に本市に転入する際に（50万円）
・妊産婦医療費の無料化
・子女次男支援　市営住宅割引　リフォーム補助
・シンボル事業PR
・分析　実際の収入とは（家族，実家，食費）
・空き校舎活用
・お金だけでなく経理も支援

【特別委員会委員】

◆第4グループ　5名　※テーブルホスト以外は，ラウンド毎に席替え

◎テーブルホスト 菊田　篤	第1ラウンド			
	Uターン者	Uターン者	千葉　慶人	三浦　由喜
	第2ラウンド			
	MINATOスタッフ	Uターン者	熊谷　雅裕	熊谷　伸一
	第3ラウンド			
	MINATOスタッフ	Uターン者	今川　悟	秋山善治郎

良かった点（第4グループ）

・大好きな気持ち気仙沼
・色々な取り組みがあって助かっている
・旬な食材を味わえる
・のんびりした生活　21時にはねれる
・自然に触れる時間が増えた
・知り合いが近くにいる
・恩師が近くにいる

【Uターン者等】

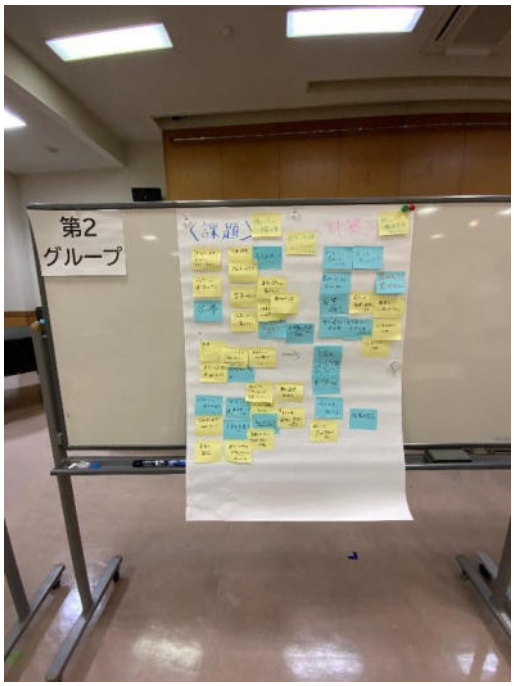
・職住が近い（ペースゆるやか）
・安心できる
・生活費が安い（実家あり）

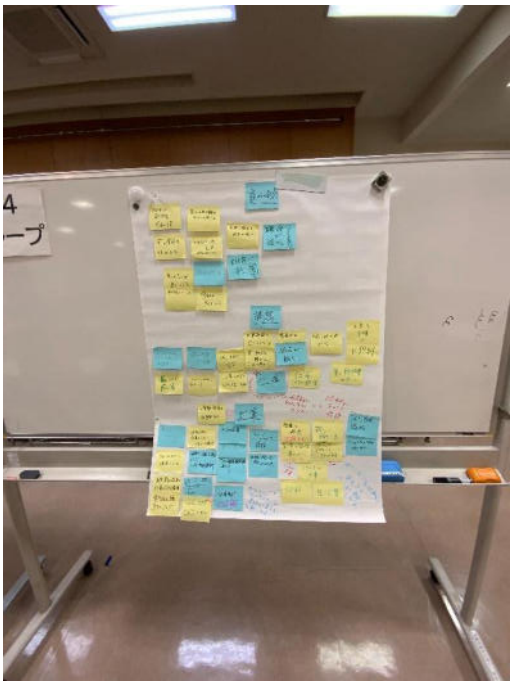
【特別委員会委員】

課題（第4グループ）
・商業施設が点々としている ・賃金が安い ・子供の遊ぶ所がない ・子育て支援→小児科 ・ペット可能な賃貸 ・買い物する所がない（一関，石巻まで・・・） ・若い人に応援 ・がいとうがない（くらい） ・1人暮らしの住居　シェアして暮らせる住居 ・仕事（特に職種） ・車の維持費が高い 【Uターン者等】 ・出会いの場（男女，同性，友人）が少ない ・夜の時間がひま ・給与が低い ・仕事　→　この情報が知れるかどうか　→　給料が下がる前提 【特別委員会委員】

対策（第4グループ）
・情報発信を多面的に！ ・21時以降に食事ができる場所を増やす ・住居の確保　新婚1年 ・新しい働き方 ・空き家，公営住宅　若い人へ UI ターン　→　ここが大事 ・地元の日払いアルバイト ・バランスが大事 ・給料　→　気仙沼でのキャリアステップや昇給が見えると比較しやすい ・生活費　→　気仙沼での生活費が見えると比較しやすい！ ・リモートワークできる環境をつくる ・東京圏の企業の仕事ができる環境 ・勉強の場　スキルアップ ・〇〇クラブ　〇〇サークル 【Uターン者等】

対策（第4グループ）
・生活の「メリハリ」が大事 ・大人の食育 ・ライブハウス常設 ・トイレ改修補助 ・「生きがい」をどう見つけるか ・シェアハウス補助　日本一目指す ・子育て支援を協力に！！ 　①　保育料無料　②幼稚園授業料無料　③誕生祝い金　最大200万円 ・サークル支援　スポーツ　趣味 ・幹事育成塾　ぬま塾 【特別委員会委員】





各グループのまとめ（模造紙・付箋）

各グループの意見交換の様子

各グループの発表・まとめの様子

別紙３

Ｕターン等に関するアンケート調査報告

- 調査方法：市公式ＬＩＮＥによるアンケート調査
- 調査期間：令和５年８月２３日～９月１３日
- 調査対象：市公式ＬＩＥＮに登録している１０代～４０代の方
  （８月２１日時点　1,453 人　※生年を登録している人数）
- 回 答 率：52 人／1,453 人　3.58%

1. 性別

詳細

男性	22
女性	30
その他	0

2. お住まい（実際に住んでいるところ）

詳細

気仙沼市内	34
気仙沼市以外の県内	8
県外	10
その他	0

3. 年代

詳細

１０代	4
２０代	12
３０代	15
４０代	21
その他	0

4. 結婚

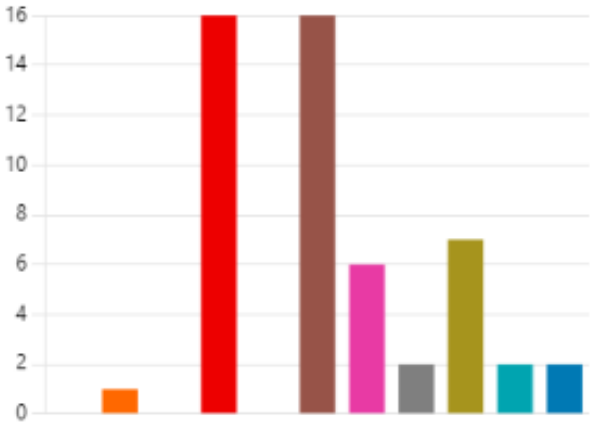
詳細

既婚	23
未婚	29
その他	0

5. 職業

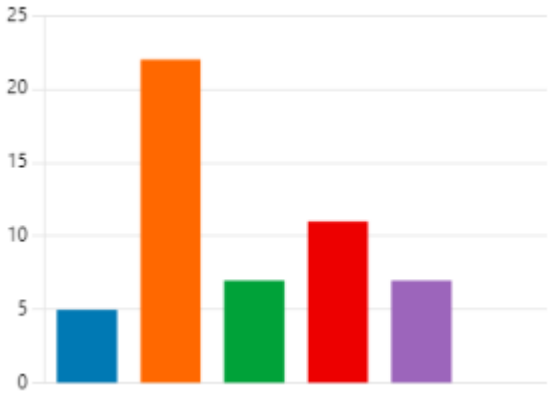
詳細

農林水産業	0
自営業（商工，サービス業）	1
その他の自営業	0
会社員，団体職員	16
会社役員，団体役員	0
公務員	16
学生	6
家事従事	2
アルバイト，パート	7
無職	2
その他	2



6. 気仙沼市とのかかわり

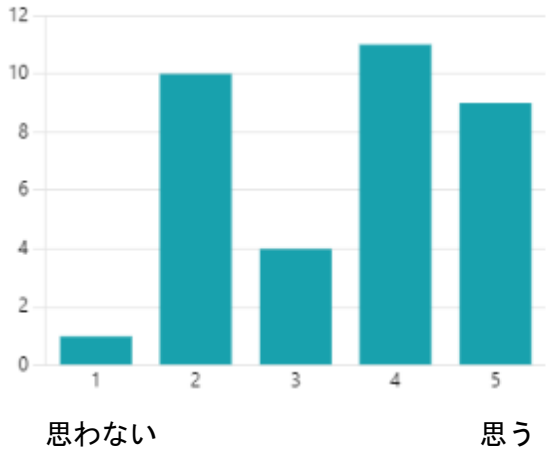
- ①気仙沼市内の出身で，市外に出ることなく，ずっと市内で暮らしている（問 7. へ進む） ５
- ②気仙沼市内の出身で，進学や就職などで市外に出たことはあるが，戻って暮らしている（問 7. へ進む） ２２
- ③気仙沼市外の出身で，市内で暮らしている（問 7. へ進む） ７
- ④気仙沼市内の出身で，市外で暮らしている（問 10. へ進む） １１
- ⑤気仙沼市外の出身で，市外で暮らしている（問 10. へ進む） ７
- その他　０



7. 問 6.で，市内で暮らしている（①，②，③）と答えた方にお聞きします。気仙沼市に住み続けたいと思いますか。その思いについて，以下の５段階から一つ選択してください。

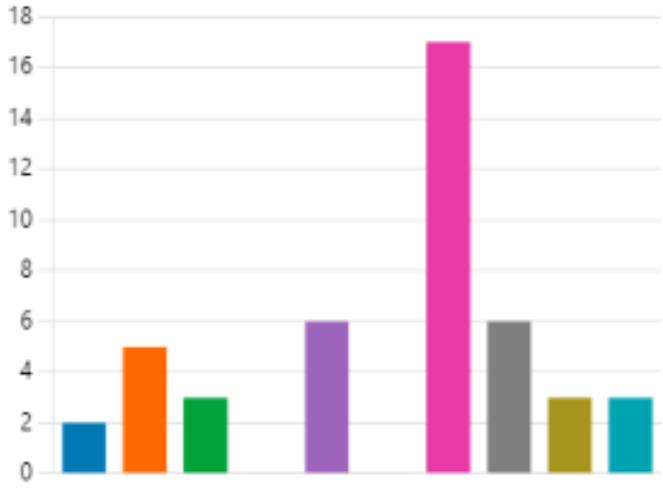
詳細　インサイト

3.49
平均評価



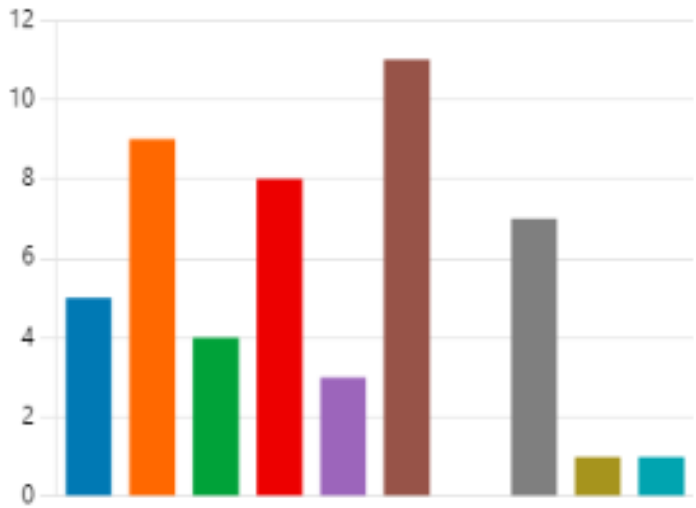
8. 問7.で，５段階のうち，４，５と答えた方にお聞きします。それはどのような所に感じますか。（複数回答可）（問13.へ進む）

- 子育て・教育環境がよい　２
- 住環境がよい　５
- 自分に合う仕事がある　３
- 医療・福祉が充実している　０
- 産業や観光など，まちの魅力がある　６
- 買い物や公共交通など，日常生活が便利である　０
- 豊かな自然があり，食べ物がおいしい　１７
- 人間関係が温かい　６
- なんとなく　３
- その他　３



9. 問7.で，５段階のうち，１，２と答えた方にお聞きします。それはどのような所に感じますか。（複数回答可）（問13.へ進む）

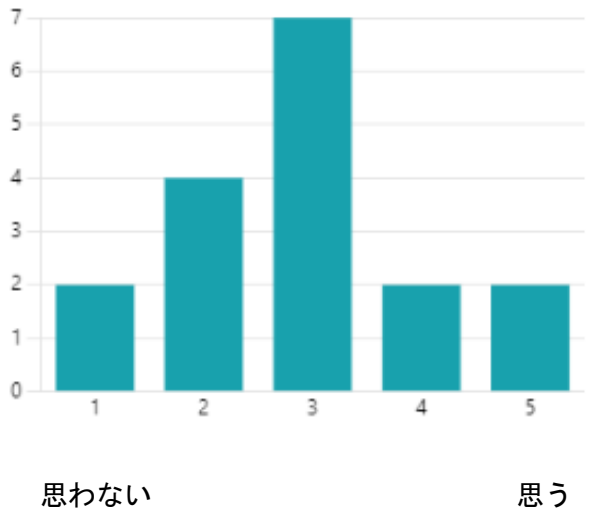
- 子育て・教育環境がよくない　５
- 住環境がよくない　９
- 自分に合う仕事がない　４
- 医療・福祉が充実していない　８
- 産業や観光など，まちの魅力がない　３
- 買い物や公共交通など，日常生活が便利ではない　１１
- 豊かな自然がなく，食べ物がよくない　０
- 人間関係が難しい　７
- なんとなく　１
- その他　１



10. 問6.で市外で暮らしている（④，⑤）と答えた方にお聞きします。将来，気仙沼市に住みたいと思いますか。その思いについて，以下の５段階から一つ選択してください。

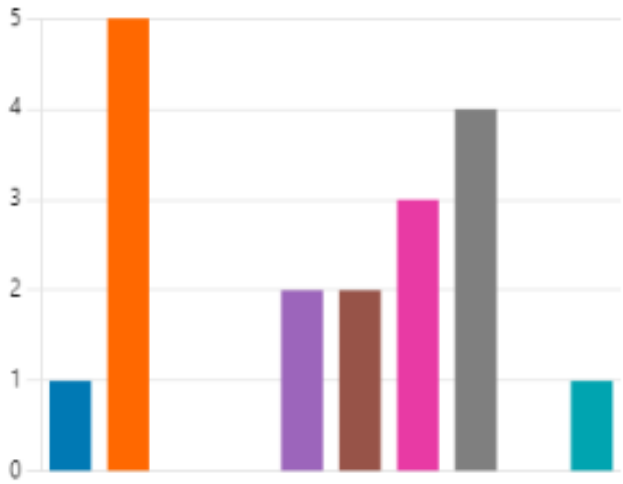
詳細　インサイト

2.88
平均評価



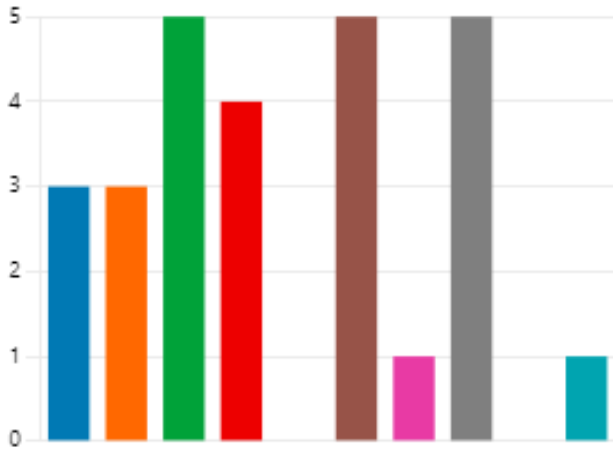
11. 問10.で，５段階のうち，４，５と答えた方にお聞きします。それはどのような所に感じますか。（複数回答可）（問13.へ進む）

- 子育て・教育環境がよい　1
- 住環境がよい　5
- 自分に合う仕事がある　0
- 医療・福祉が充実している　0
- 産業や観光など，まちの魅力がある　2
- 買い物や公共交通など，日常生活が便利である　2
- 豊かな自然があり，食べ物がおいしい　3
- 人間関係が温かい　4
- なんとなく　0
- その他　1



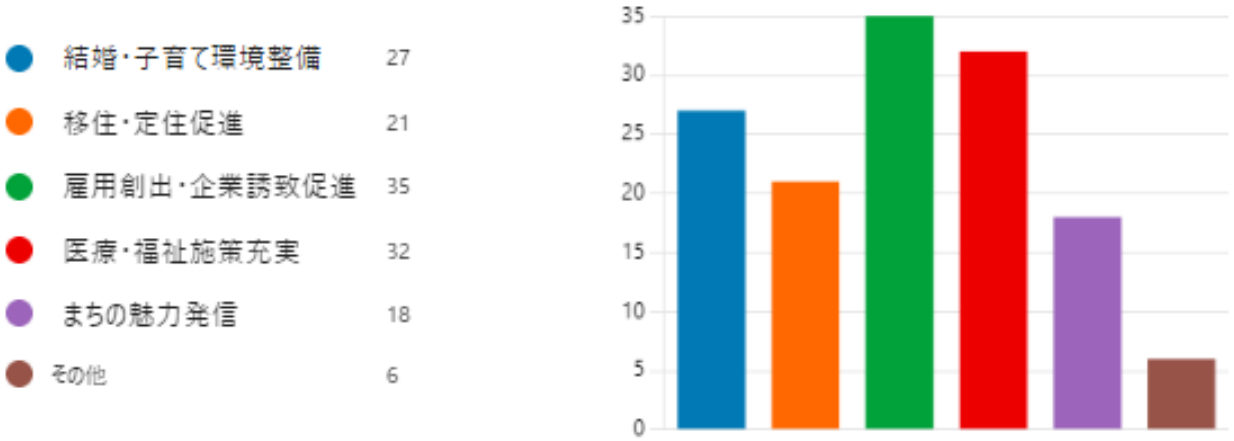
12. 問10で，５段階のうち，１，２と答えた方にお聞きします。それはどのような所に感じますか。（複数回答可）（問13.へ進む）

- 子育て・教育環境がよくない　3
- 住環境がよくない　3
- 自分に合う仕事がない　5
- 医療・福祉が充実していない　4
- 産業や観光など，まちの魅力がない　0
- 買い物や公共交通など，日常生活が便利ではない　5
- 豊かな自然がなく，食べ物がよくない　1
- 人間関係が難しい　5
- なんとなく　0
- その他　1



13. Uターン等に対応した施策として，重要だと思うことは何ですか。（複数回答可）

詳細



14. Uターン等に対応した具体的な施策について，お考えを自由にお書きください。（例：空き家の活用・住居支援の充実など）

主な回答内容（原文のまま掲載）

・空き家、空き店舗、空き地の活用。
・居住環境、雇用促進ご必要だと思います。
・医職住が足ることが不可欠だと思います。空き家（復興公営住宅）の利活用，後継者不足に悩んでいる職の支援，見知らぬ土地でかかりつけ医がいないにも関わらず一見お断りの市立病院の対応の改善。
・定住してもらうためには、魅力的な企業誘致が必要。ただ、企業誘致が良くても生活環境（子育て支援、交通環境、インフラ整備）が良くなければわざわざ気仙沼に住みたい、帰って来たいと言う人は少ないと思います。
・遊ぶ施設を作った方がいい。
・子育て世代の所得アップ。
・市内出身者が気仙沼に戻ってくる際の費用を 1 部補助したり、優先して空き家を紹介してくれたりすると戻る時の不安要素である「家探し」が少し楽になると思う。
・若者の安定した雇用先の確保と十分な賃金保証がなければ選ばれない。
・市からの情報が届きづらい，わかる人にはわかる，わからない人には全くわからない。
・水産業以外の産業の誘致、空いている農地の活用のための就農支援、結婚支援。
・基本的に、不動産を所有する世帯かつ、2 世帯住宅を許容できる人しか U ターンできないので、実家前提のアプローチを若者にするのをやめる。大学卒程度の給料を改善する。空き家を市で改修して賃貸する（住みたい形は役所や大家がわかるわけないから、若者に任せる）。評価は第 3 者が行う。食が豊かであることを、全国の人が知ってないと、出身者は比較できない派遣社員の仕事を増やす。外国人労働者を増やす。気仙沼には生活ができる給与の仕事がないので求人を増やす。または賃金を増やす。
・後継ぎがいない事業所の事業承継に地域おこし協力隊を活用している事例があるようです。気仙沼市にも後継者不足といった課題を持つ事業者は多いので、公募のような形で隊員を入れるか検討できるのでないでしょうか。

・派遣社員の仕事を増やす。外国人労働者を増やす。気仙沼には生活ができる給与の仕事がないので求人を増やす。または賃金を増やす。
・私自身の所感ですが、私は県外の製造メーカーに焼く 5 年勤めておりました。気仙沼の企業は大手企業と比較して給料及び休日取得数がとても少ないと思います。それに、一人暮らしをしようにもアパート家賃が値段が都会並みに高く、車がないと生活に支障をきたすため、車の維持費もかかりますので趣味や交際費を削らなければ生活できませんの。そのため、企業誘致に力を入れてもらい企業の増加に伴う定住者と競争性による収入増加と、難しいとは思いますが、市営住宅家賃の減額及び不動産及びアパート大家の家賃減額の要請をお願いしたいです。
・就職活動に関わる費用の補助。
・自分が学生だったときは、就職氷河期だったこともあり市内では市役所など公務員しか選択肢がないと感じていた。実際には市内にも魅力的な企業が沢山あり、働きがいもあるはずなので、各企業の発信が大事だと思う。
・空き家の活用。企業を誘致し、継続雇用を見込める環境。低賃金の見直し。
・仕事付きのお試し移住、どんな人でも生きやすいまちをつくること、生まれ育つ人にとって/移住する人にとってコモンズと呼べる場所があること。
・病院と福祉施設の充実。
・子育て施策を充実させて将来的な人口を増やすことが何より重要だと思いますし，子育てをしやすい自治体には人が戻ってくる，移住してくると思います。